

結果ではないかと考えています。

また、本県と隣接する栃木県や千葉県との県境に位置する医療圏に居住する方の中には、両県の医療機関を受診される方も少なくありませんが、両県の御理解・協力のもと、それらの医療機関の登録情報についても、両県経由で提供いただいております、大変感謝しています。

このほか、遡り調査の実施や、平成 19 年度から、市町村への住民票照会による生存確認調査を開始するなど、データの精度向上を進めています。

医療機関から届出票の提出件数が増加し、がん登録の精度が高まっていく一方で、収集した情報を、いかに本県のがん対策に活用していくかが課題となっています。

地域がん登録を治療の向上に役立てていただくことは当然のこととして、もう一つの方向としては、地域がん登録の解析結果を、がん検診の受診率向上を図るための普及啓発を行う上で、地域の身近な説得力あるデータとして、活用していきたいと考えています。また、行政担当の立場から痛感することは、地域がん登録の必要性・重要性を理解していただくのは、医療機関ばかりではないということです。

昨今、地方自治体の財政状況は非常に厳しい状況にあり、地域がん登録の実施に係る予算の確保も例外ではありません。そこで、財政担当部局に対しても、地域がん登録の目的や成果を目に見えるかたちで示し、その必要性等を理解してもらうことが大切になっています。

これからは、従来の取り組みの他に、登録情報の利活用を図り「見せるがん登録」ひいては「魅せるがん登録」にも取り組んでいかなければならないと思っています。

## 5. 最後に

よりよい地域がん登録にしていくために、がん登録の法制化を願いつつ、スタッフ一丸となって努力していきたいと思っておりますので、国立がんセンター並びに全国の登録室の皆様には、よろしくご指導賜りますようお願い申し上げます。

## 第 18 回地域がん登録全国協議会総会研究会報告

小松原 秀一

新潟県がん登録室

平成 21 年 9 月 3 日、4 日の両日新潟県民会館に於いて、第 18 回地域がん登録全国協議会総会研究会および実務者研修会を開催し、盛会のうちに終了することができました。総会研究会 201 名（新潟県内 60 名）、実務者研修会 115 名（新潟県 42 名）、情報交換会 122 名の参加があり、参加実数は 219 名（新潟 76 名）でした。

総会研究会、実務者研修会、公開講座を通して、がん登録実務者の他、がん検診や診療録管理に携わる方々にも、広くがん登録への理解を深めていただき、ひいてはがん登録の普及充実に寄与する機会にしようとして企画いたしました。がん登録を標準化して精度の高いデータを得ること、得られたデータを、がん検診の精度管理に応用する道を開くことを念頭に、メインテーマを「がん登録とがん検診」といたしました。

パネルディスカッション「がん登録システムの標準化—その効用と問題点—」では、津熊秀明先生を座長に、味木和喜子先生（国立がんセンター）の基調講演「標準化のめざすもの」、大木いずみ先生（栃木県立がんセンター）、伊藤秀美先生（愛知県がんセンター）、藤田学先生（福井社会保険病院）、早田みどり先生（放射線影響研究所）が各県の登録室における標準化作業についてご講演、丸山洋一先生（県立がんセンター新潟病院）から院内がん登録の立場で問題点の指摘があり、柴田亜希子先生（山形県立がん・生活習慣病センター）からも特別発言をいただきました。

特別講演には岡本直幸理事長に座長の労をお取りいただき、新潟県がん登録室小越和栄が「がん検診の精度管理と地域がん登録」のテーマで、がん登録データを用いた検診の有効性の検討が可能であることを報告しました。

学術的ポスター演題は 12 題の意欲的な発表があり、道府県ポスターは 33 題で主に各地域の登録状況が紹介され、このうち 6 題がポスター賞に選出されました。

実務者研修会は、福井県立病院海崎泰治先生、大阪府立成人病センター井岡亜希子先生から病期分類とがん登録で用いる進行度分類について、宮城県立がんセンター西野善一先生、新潟プレストセンター佐野宗明先生から検診の精度管理の実際について講演していただきました。

総会研究会プログラムに引き続き、公開講座「がん登録はどのようにがんの征圧に役立っているか—がん登録の利用—」と題し、同日、同会館で行われた新潟県がん征圧月間行事との共催で講演会を行いました。司会は新潟県がん登録室小越和栄とともに国立がんセンター祖父江友孝先生が務められ、大阪府立成人病センター大島 明先生、新潟青陵大学中平浩人先生からがん登録の必要性が述べられ、新潟県がん登録室から内藤みち子、小松原秀一が新潟県のがん罹患のデータとがん検診の精度管理への応用について講演いたしました。



写真1. 会場の様子



写真2. 情報交換会

## 第19回地域がん登録全国協議会総会・研究会のご案内（第一報）

岡本 直幸

神奈川県立がんセンター

日頃より地域がん登録全国協議会へのご支援、ご協力を感謝いたしております。第19回の総会・研究会の開催の予定につきご案内申し上げます。

平成22年度は、皆様ご承知のように第32回国際がん登録協議会（IACR）の学術総会が開催されること、本協議会がNPO法人として新たな活動を展開することになるため、変則的な開催となりますことをご諒解下さい。大きな変更点は以下の二点です。

- ① NPOへの移行により、総会を6月末までに開催せねばならないこと。平成22年度の総会は6月末までの開催を目指して調整中です。
- ② 研究会はIACRの学術総会に合わせて実施すること。

平成22年度の研究会は、例年の9月初旬ではなく、第32回のIACR学術総会（平成22年10月11日～15日）の開催に合わせて行います。内容はポスター発表と公開講演会を予定しています。大まかな予定は次のようになっています。

平成22年10月11日（月、終日） IACR 共催「がん登録研修会：生存率について（英語）」
12日（火、終日）IACR 学術集会（英語）
13日（水、終日）IACR 学術集会（英語）
14日（木、午前）IACR 学術集会（英語）
14日（木、午後）アジア地域がん登録ネットワーク会議（英語）
15日（金、午前）第19回地域がん登録全国協議会研究会 （ポスター、英語／日本語）
15日（金、午後）公開講演会（通訳あり）

第19回の地域がん登録全国協議会の総会は6月4日（金）に、研究会は10月15日（金）の午前中（ポスター発表）、午後（公開講演会、通訳あり）となります。ポスターの募集は7、8月ごろを予定し、公開講演会に関しまして現在調整中です。総会の日程および研究会の内容等が決まり次第、皆様へご連絡をする予定です。